

海外ビジネス情報



ニューヨーク

北陸の魅力発信！「NY北陸フェア2026」

北陸銀行 国際部
ニューヨーク駐在員事務所
所長 安川 幸治

1. はじめに

2026年1月19日から2月1日の約2週間、ニューヨーク市ブルックリン区の商業施設にて、富山、石川、福井の北陸三県による「ニューヨーク北陸フェア2026」が開催されました。1月24日と25日に実施された特別イベントを視察しましたので、その様子をご紹介します。

2. 北陸三県連携イベント

従来、各県が個別に県産品の海外プロモーションや輸出強化を行っていましたが、2023年の北陸三県知事懇談会を契機に、フランスやシンガポールでの展示会・イベントに「オール北陸」で共同出展する取り組みが始まりました。2025年4月には「北陸三県輸出促進協議会」が設立され、農林水産品、飲食品類、伝統工芸品等を一体となって海外に売り込む活動が強化されました。そして今回、三県の合同企画として各県から計7名の職員が来米し、米国で初めてイベントを開催する運びとなりました。

3. 会場・フェアの様子

開催期間中のニューヨークは大寒波の到来で、来場客の出足が懸念されましたが、会場は多くの来場者で賑わいました。

商業施設「Japan Village」内にある日系スーパーでは、売り場に特設コーナーが用意され、北陸三県の38社83商品が陳列・販売されました。さらに、施設内の日本酒を扱う酒販店では北陸の地酒試飲コーナーが設けられ、フードコートや和食居酒屋店では北陸の食材を使用した特別メニューが提供され、単なる「試食」ととどまらない、現地で北陸の食文化を体験できる工夫が見られました。

特別イベントが開催された2日間は、お茶や菓子類の試食・試飲販売のほか、体験コーナーや有料予約制のワークショップなども行われました。特に人気が高かったのが、三県の県産ブランド米を用意



日系スーパーの北陸フェア特設売り場
(筆者撮影)

した「おにぎり作り体験」のコーナーです。

富山県の「富富富」、石川県の「ひやくまん穀」、福井県の「いちほまれ」から好きなお米を選び、塩や味噌、梅や海産加工品などの具材を自由に組み合わせて自分で握って食べることができ、約300名が参加したそうです。参加者は、3県のブランド米の食べ比べをしたり、調味料や具材を変えてマリアージュを楽しんだり、おにぎりの魅力を存分に味わっている様子でした。自宅でもホームパーティーなどで仲間と楽しみたいといった声も聞かれました。

また、水引作りや越前味噌作りのワークショップは有料にもかかわらず満席となる盛況ぶりで、日本文化への関心の高さがうかがえました。しかし、2日目は大雪の影響で、イベントキャンセルとなってしまったのは大変残念でした。

本イベントの運営には、ニューヨーク県人会の方々がボランティアで協力され、ふるさと自慢を伝える貴重な役割を果たされていました。



【写真上】おにぎり作り体験コーナーの様子
【写真下】北陸産飲食品の試食・試飲・販売コーナー
(筆者撮影)

4. おわりに

米国における日本食の定着・多様化を踏まえ、市場としての潜在性や円安の状況を睨んで、各都道府県が地元産品の輸出拡大や消費促進に向けた取り組みを強化しています。しかし、米国人からすると、あくまで「日本製」「日本産」としての関心にとどまっており、都道府県としての認知度は低く、県ごとの違いは伝わりにくいのが実情です。

そういった意味では「北陸」という地域自体も差別化や認知度の点で課題がありますが、北陸三県が共同戦線を張って米国の消費市場に挑戦し始めたという点では一歩前進と言えるのではないのでしょうか。単発イベントで終わらず、今後も継続的な情報発信や商流の安定確保に向けた仕組みづくりの工夫が期待されるところです。

<ご注意> 文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容については、ご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp